

問い合わせ先
第七管区海上保安本部
海洋情報部海洋調査課長 今木
093-321-2931 (内線 2530)



第七管区海上保安本部
平成28年6月27日

離岸流発生に注意！

～ 楽しく安全なマリンレジャーのために ～

第七管区海上保安本部では、マリンレジャーシーズンを前に、福岡県の二見ヶ浦海岸において、『離岸流』の実態調査を行いました。

2日間、計5回の調査の結果、岩礁付近で離岸流の発生を確認しました。

調査結果は、第七管区海上保安本部ホームページに掲載するとともに、管内の海上保安部署等を通じて地域の安全指導等へ活用します。

○調査区域図（福岡：二見ヶ浦）



○調査結果の公表

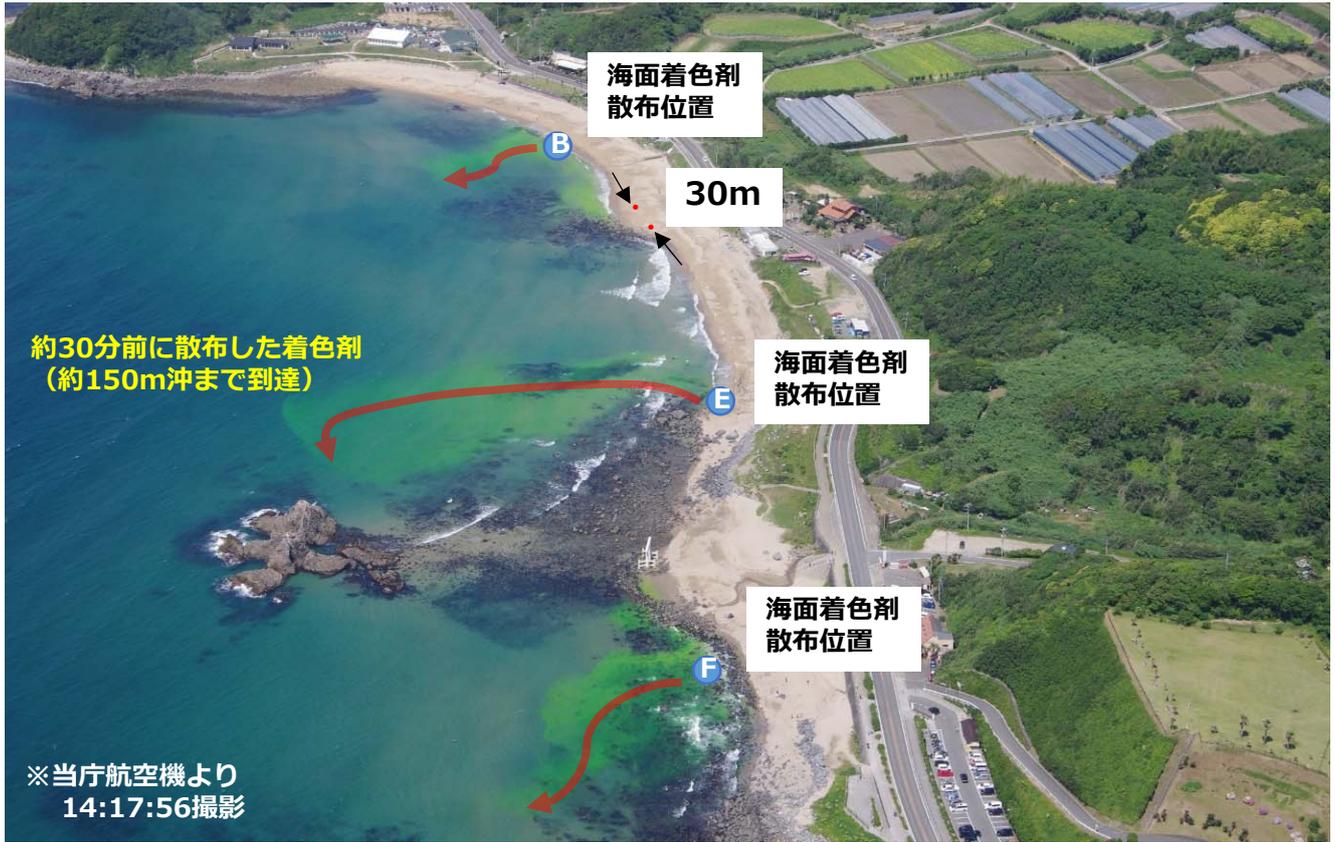
ホームページでは、ヘリ及び高所から観測された離岸流の画像や動画など
がご覧いただけます。また、離岸流の解説や脱出方法なども掲載しています。

離岸流については、第七管区海上保安本部海洋情報部 HP で情報提供しています。

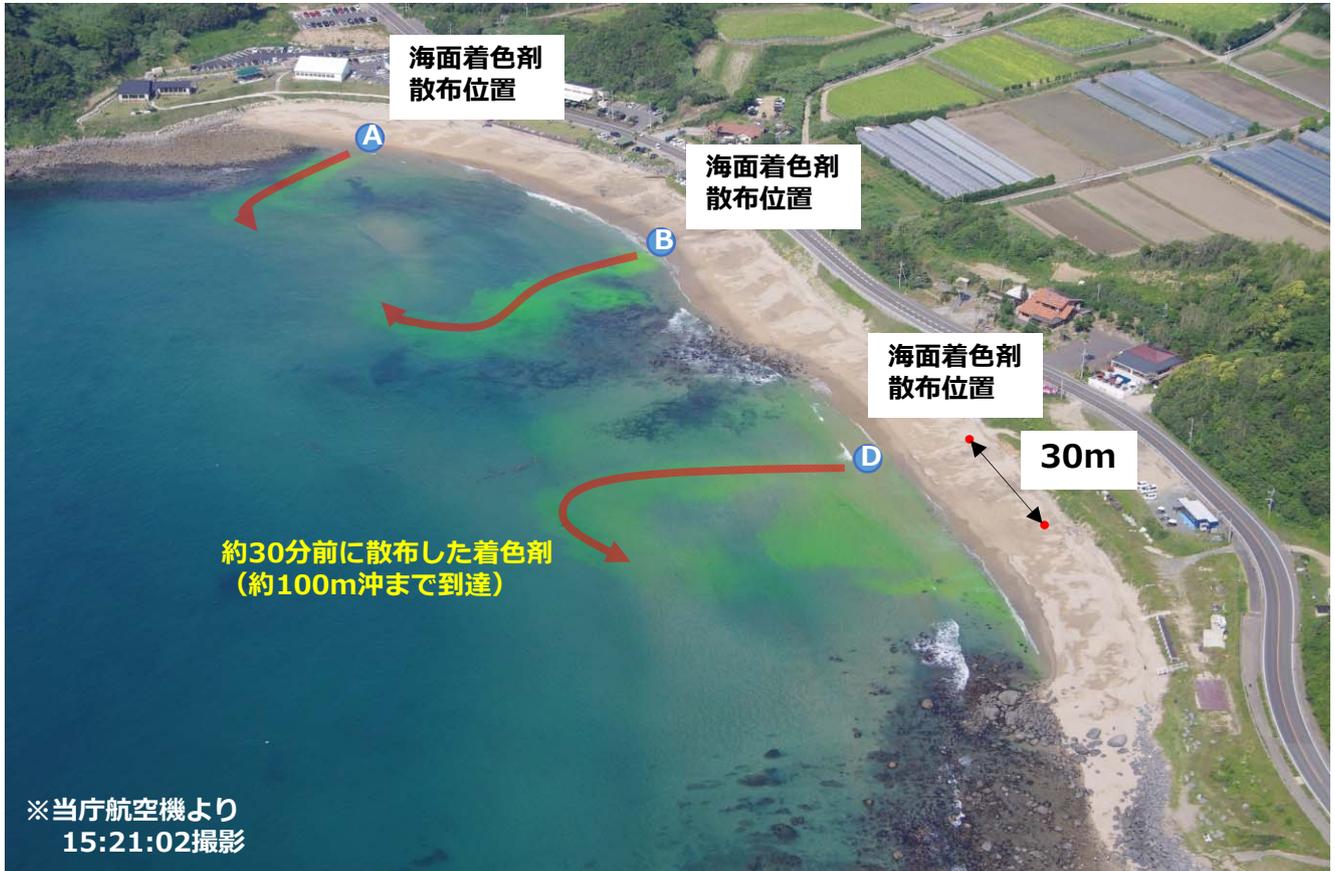
< http://www1.kaiho.mlit.go.jp/KAN7/marin/rigan/rip_current.htm >



平成28年6月2日 に観測された離岸流の様子（2回目調査：ヘリから空撮）



平成28年6月3日 に観測された離岸流の様子（5回目調査：ヘリから空撮）



二見ヶ浦海岸の離岸流調査速報
(平成28年6月2日～3日)

二見ヶ浦・夫婦岩付近で離岸流が発生！

福岡県の糸島市から福岡市西区にまたがる二見ヶ浦海岸で、鹿児島大学水産学部西教授の立合いのもと、海面着色剤及び福岡航空基地のヘリを用いた離岸流調査を行いました。調査の結果、**夫婦岩付近で離岸流が発生**することを確認しました。

調査結果

・6月2日～3日に調査を行い、調査範囲の南東側の夫婦岩付近で、**最大約0.6m/s、約150m沖**まで流れる離岸流の発生を確認しました。(表1参照)

表1 海面着色剤投入箇所の最大流速(上段)及び岸から沖合いまでの距離(下段)

月日 区域 調査時間	A	B	C	D	E	F
1回目 6月2日 1012～1142	約0.2m/s 約100m	約0.2m/s 約100m	約0.2m/s 約120m			
2回目 6月2日 1348～1430		約0.2m/s 約120m	--- 拡散	--- 拡散	約0.6m/s 約150m	約0.3m/s 約100m
3回目 6月2日 1515～1600	約0.2m/s 約100m	--- 拡散	--- 拡散	--- 拡散	約0.2m/s 約120m	
4回目 6月3日 0951～1030	約0.2m/s 約100m	--- 拡散	約0.2m/s 約60m	約0.2m/s 約60m	--- 拡散	
5回目 6月3日 1452～1530	約0.2m/s 約60m	約0.2m/s 約110m	--- 拡散	約0.3m/s 約130m	--- 拡散	

※最大流速は海面着色剤投入後約5分以内に観測された値

調査範囲及び調査方法

海岸に30m間隔で目印を適宜設置し、海岸付近の波打ち際に海面着色剤を散布して、着色した海水の動きにより離岸流の発生を調査しました。



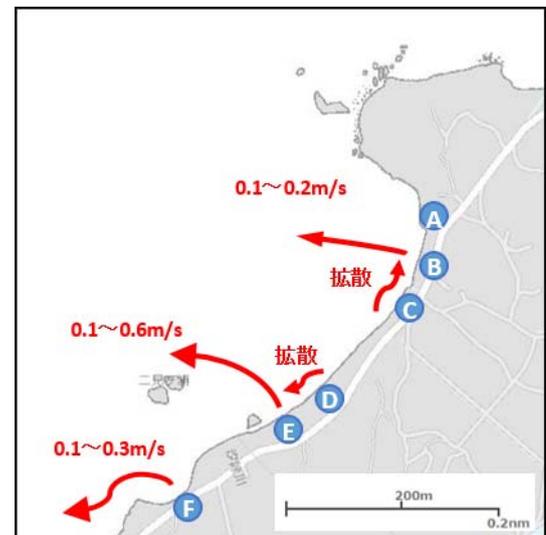
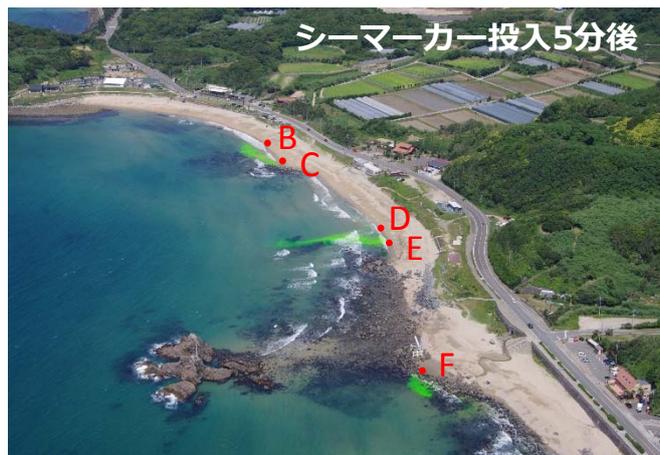
1回目調査：高所から撮影（6月2日 1012～1142）

海面着色剤投入箇所は、A,B,C
風向・風速：北西～北東、1.2～2.5m/s
波高・波向：北、0.2m未満



2回目調査：ヘリから撮影（6月2日 1348～1430）

海面着色剤投入箇所は、B,C,D,E,F
風向・風速：北西～北、1.0～4.5m/s
波高・波向：北、0.2m～0.5m



3回目調査：高所から撮影（6月2日 1515～1600）

海面着色剤投入箇所は、A,B,C,D,E
風向・風速：北、1.8～3.0m/s
波高・波向：北、0.2m～0.5m



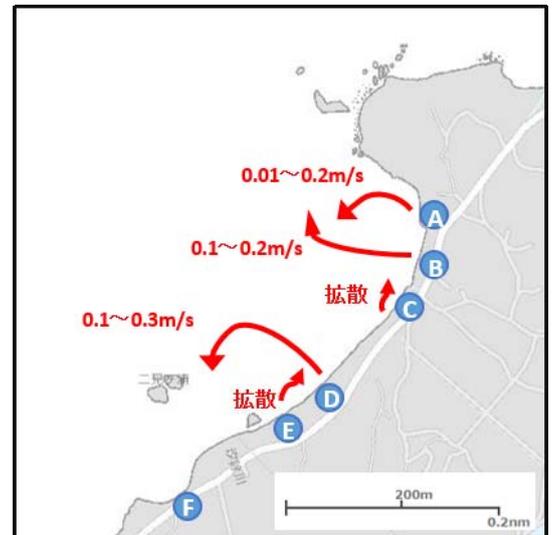
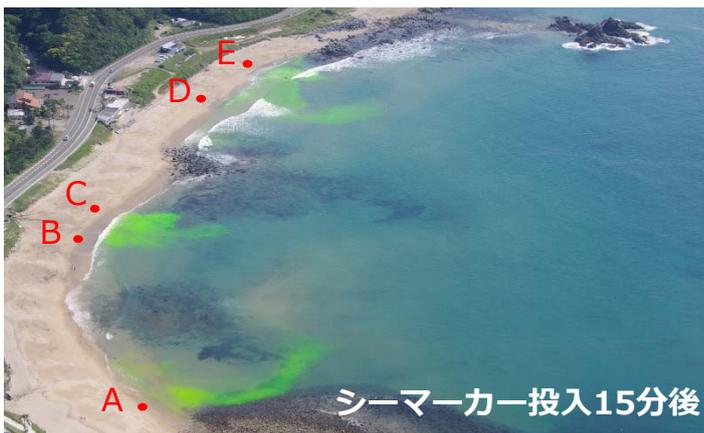
4回目調査：高所から撮影（6月3日 0951～1030）

海面着色剤投入箇所は、A,B,C,D,E
風向・風速：北、0.9～1.7 m/s
波高・波向：北、0.2m未満



5回目調査：ヘリから撮影（6月3日 1452～1530）

海面着色剤投入箇所は、A,B,C,D,E
風向・風速：北西、1.5～1.9 m/s
波高・波向：北、0.2m～0.5m



総評・まとめ（西教授のコメント・提言）

・二見ヶ浦は、沿岸方向に海底地形が一様ではなく、波を遮蔽する岬状の地形の存在に加え、波を碎波しやすい浅瀬や岩礁が点在する海岸である。そのために、沿岸方向に波の高さおよび平均水位が非一様になりやすい海岸地形であると言え、調査時に発生していた離岸流は海底地形性の離岸流であった。発生する離岸流の速度および規模（離岸距離）は海象条件により変化するが、発生位置は海底地形から推測できる個所であった。海上保安官やサーファーなど、流れ（海浜流）を読む訓練をある程度積んでいる人々であれば離岸流の発生状況をある程度把握でき、海域利用者に安全情報を伝えることが可能な海域と思われた。なお、離岸流が発生しやすい海域であるので、海域の安全利用を周知する啓発教育用看板などの設置が必要と思われた。加えて、一般の海域利用者は、何らかの形で離岸流情報を得てから、水の中で遊ぶなどの親水利用を図るべきであると思われた。

※離岸流はこの海岸でも起きる可能性があります。防波堤や離岸堤など、流れを遮るものの付近では離岸流が発生しやすく、また、風向きや波の大きさなども影響します。離岸流で気付かないうちに沖に流される可能性があるため、遊泳中は沖に流されていないか周囲を見て注意するようにしましょう。